

文政七年甲子

虎

琴

今

風

羅

船

初編

全

六

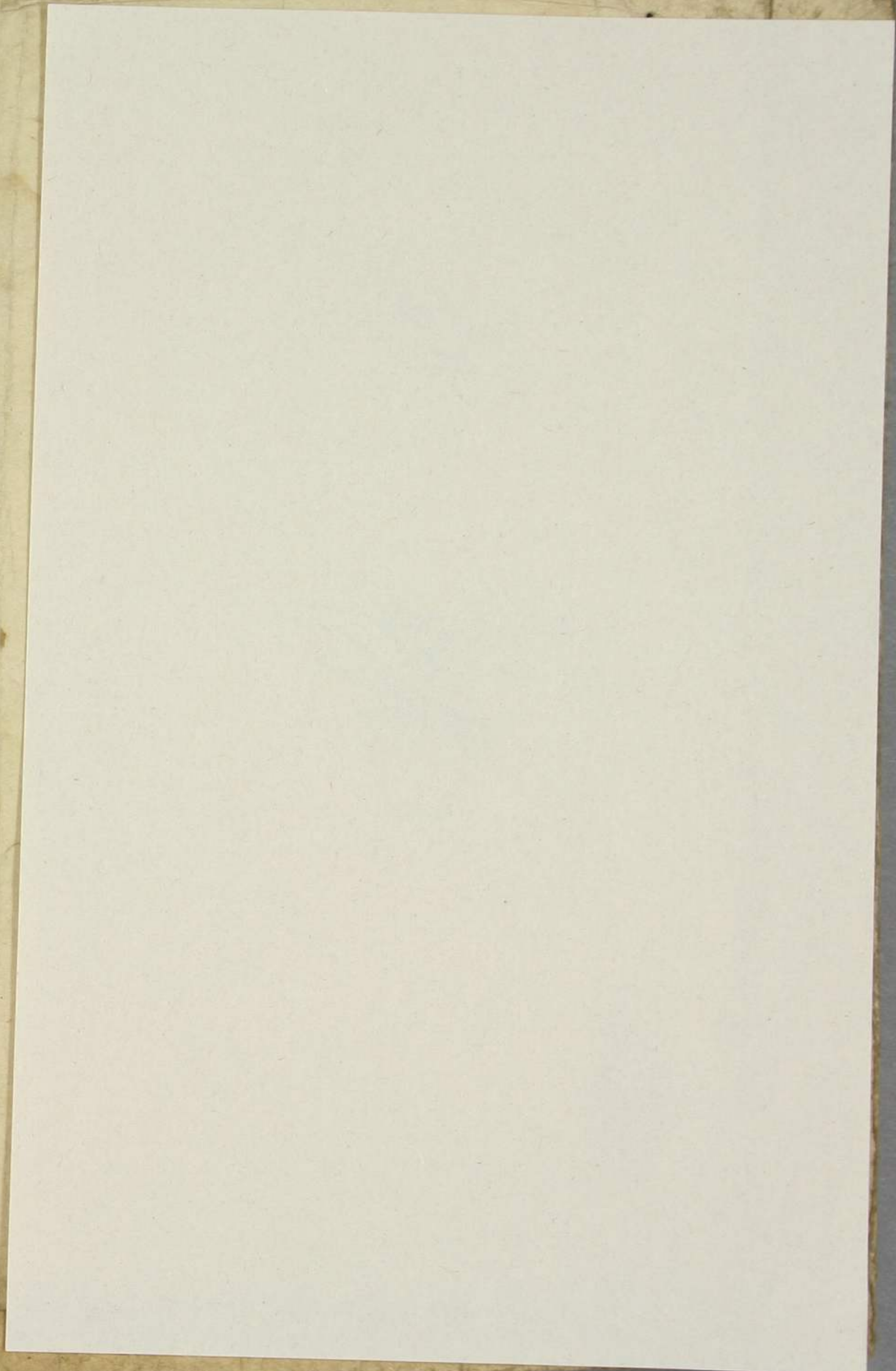
冊

遺品
1819



金毘羅船
 利生纜
 初編

大坂
 文政
 御
 印
 行





馬琴著

余英泉市板

金

毘船



英泉画

利生鏡

甲契公百拜上

壹

虚説の異名をめぐり浮圖家の方便壯士の寓言武士の武畧小遊女の子管
 叔高賈の空哲言文孰く虚説のあらざるけり虚は是實の對あり花のうそあり
 実のまこと邪説暴行のあらざるを善巧といひ戯説といひ神道眞實佛語の口々
 神釋面部の乗合る金毘羅船と題し標識の讀州象頭山昇の先なる智
 東の海面把取揖はせると作者が獲ひ小帆を揚て思ひつゝを友代筆の漕まる今昔
 和漢の渉るも少許類拔彼天潢の何侯王の西遊記より故事附とせしる物
 草稿のかゞ代のむり佛在世のあらざるのむり自ぬ綴るはる戯作も勸懲なきま
 くら出さるるそとと神も照覽佛へんは身をたせまるとありをかうり羽織の
 裏をもく鶴の脛るる長物語の今茲初編の序ひききう追々接木の花の春の
 續く歎其知まて考果るるきののうら千世の千世のむりかへて敬之序下

文政七年甲申春正月新版

曲亭馬琴今述



金田正徳の切編

疑ふも美事なり
 こゝろを信とゆふ
 信の至く
 深きもの
 こゝろを深信と
 深く信
 深く信
 ちるもの
 福を轉し福と成りしものあり
 さればその願とて成就
 甘きといふことば
 徳偉きなり
 かな



えのひら
 金毘羅
 毎歳詣の
 行者
 金野伍平太

長堀橋の
 船宿金平野屋
 女見
 花

えのひら
 賚日
 ちろ直き
 けめ
 獣
 ま
 山の
 名
 き
 家
 の
 頭
 神
 宿



えのひら
 金毘羅
 毎歳詣の
 行者
 御神酒講十郎

金野伍平太



千早振る神世のむす
火神軻遇突智の
生れー
母の尊
伊弉册
焼
神去
伊弉
諾尊
怒
軻遇突智をえん研

天地所
夫婦權輿
陽尊神

今火を鑽く薪一殺一又婦女
子の月經と火が
一のふもこま

陰尊
神

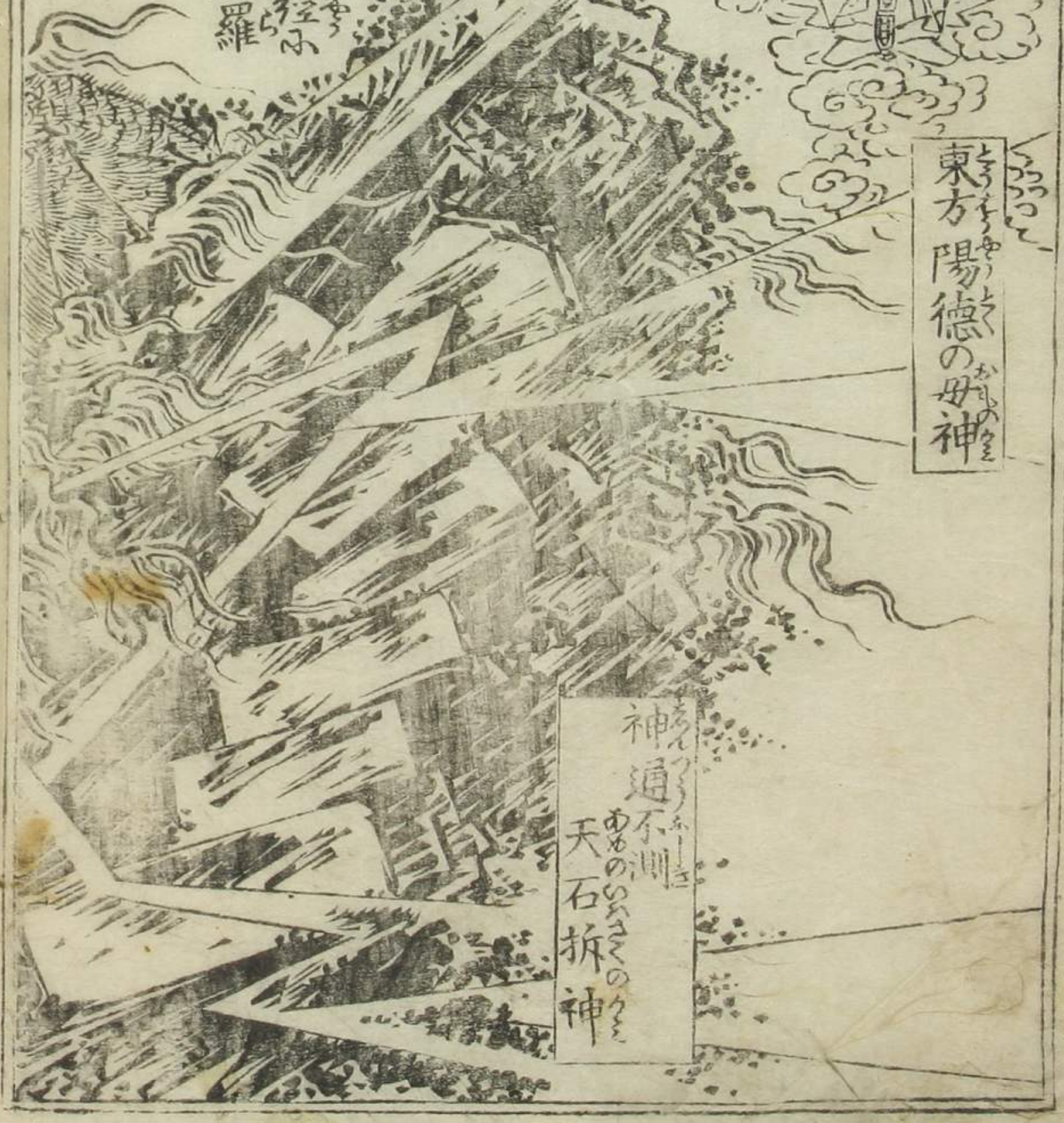
吾妹
脛の
火とを
か
軻遇突智の母

火の尊
軻遇突智



東方陽徳の母神

火の神軻遇
突智の破
とん疑血ハ石と
その石の中
一箇の神化生
と石折の神との佛
の金毘羅天王又金毘羅
天童子本地不動と
いふのどの神ふ



神通不測
天石折神



似
然
百
石
生
動
世
ま
丁
ま



西方陰徳の師表

小角八加茂後公氏ゆり大和葛
 城郡葛原村の人なり二十歳ふ
 ちて葛城山に入りて松子と
 食ふ藤葛を衣をまき孔を
 明王の呪文を持て飛行自在を
 たり一日山神とて金峯山石橋を
 造りてその速きを怒り
 一言主の神を呪得て又常小
 小角の使役者二童鬼
 ありその中前童鬼ハ
 男の妙童鬼ハ
 女あり



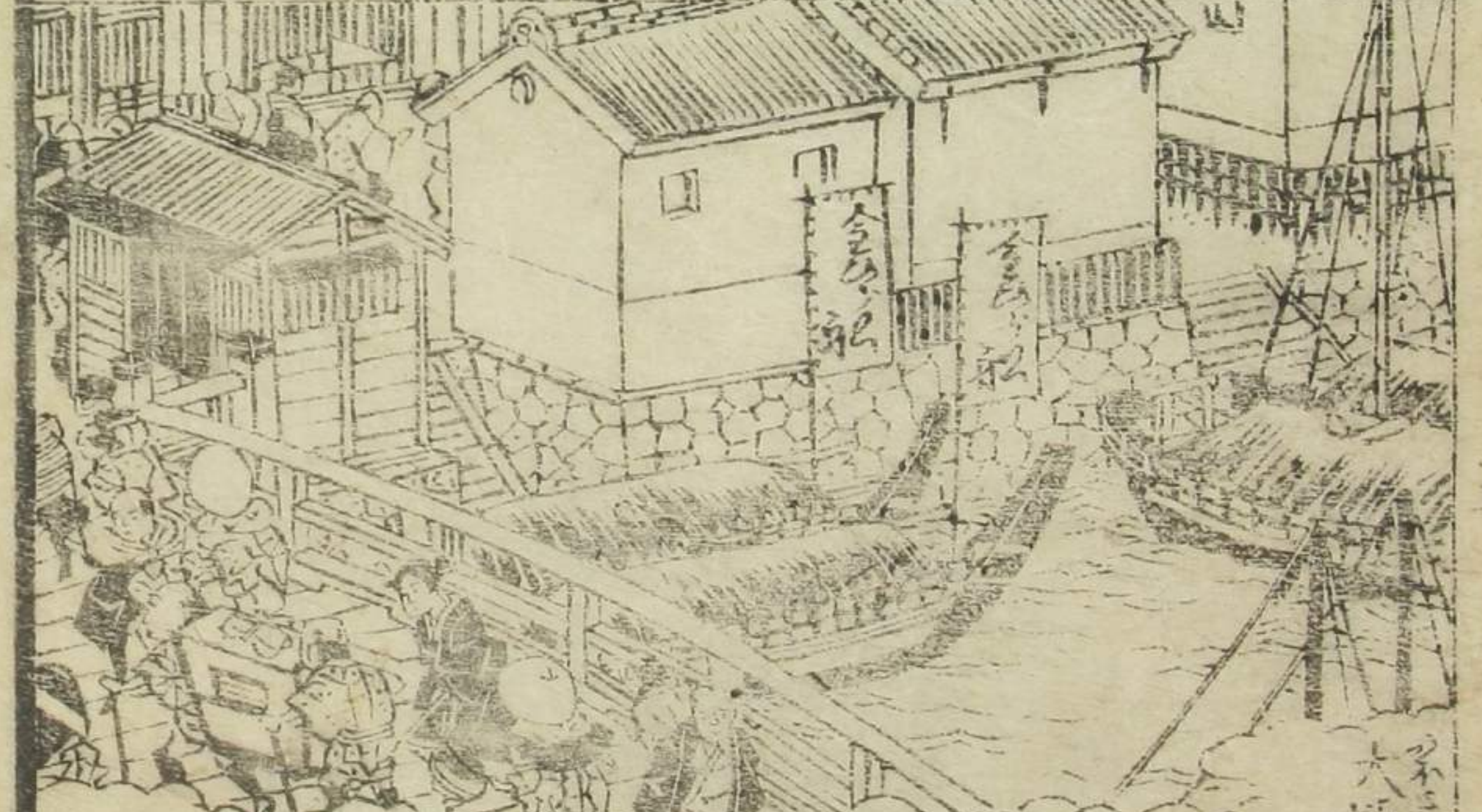
後鬼の変相
 山妻高岩

又これらを前鬼後鬼といふ
 この鬼大和の生野嶽に住り
 後小角は捕れ大峯小置
 その跡に精舎を建て鬼取寺とす
 名つらふ其小角の若人世人ハ
 役行者と唱ふ天性至孝なり其
 その母を鉢に載り渡唐せしゆ他ハ
 其日本知の大神仙後世を賜りて
 神変大菩薩と稱せり 賢曰
 葛城やその間の山を踏むは
 入りぬ 君があらあら



前鬼の変相
 樵夫陀羅尼

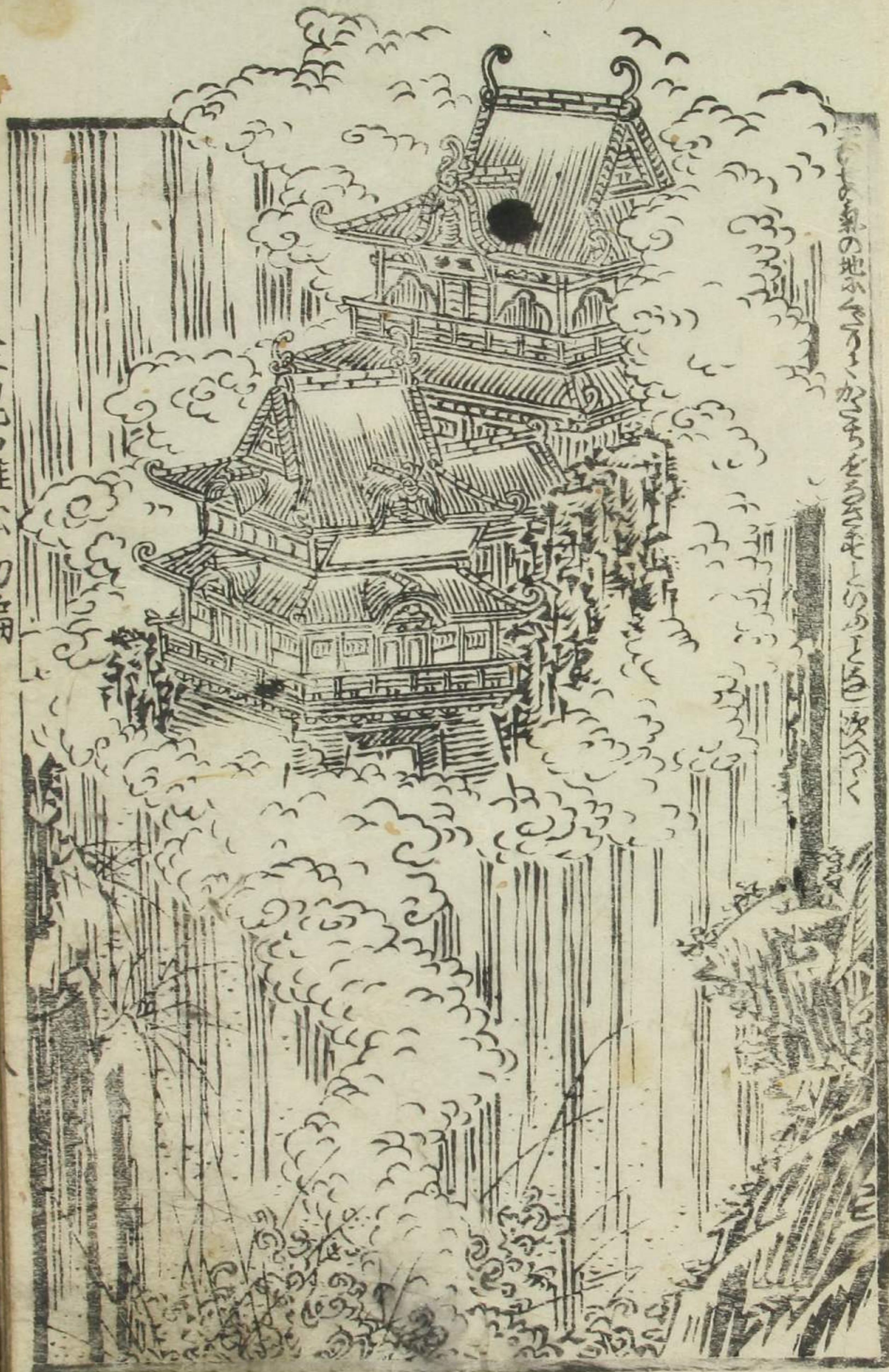
おおく大坂の片やうめ全の船太といふもの
 ありあけりくろくうらんのあやわやうめ
 ありあけりくろくうらんのあやわやうめ
 ありあけりくろくうらんのあやわやうめ
 ... (transcription of handwritten text) ...



大坂長堀
 舟宿の圖



金田の舟太といふもの
 ありあけりくろくうらんのあやわやうめ
 ... (transcription of handwritten text) ...



三田口佳木の御

此の地の地が... (Vertical text describing the location)



か... (Main block of vertical text, likely a narrative or commentary on the scene)

三田口... (Vertical text on the right margin)

あ... (Small annotations or labels at the bottom of the illustration)

その世に鬼のよはる今もくきくたの
 神の山にまはるるのふりけのしき
 又の世に鬼のよはる今もくきくたの
 神の山にまはるるのふりけのしき
 ... (transcription of the main text block on the right page)



山又山を
 山又山を
 ... (transcription of the text block below the illustration on the right page)

その世に鬼のよはる今もくきくたの
 神の山にまはるるのふりけのしき
 ... (transcription of the main text block on the left page)



山又山を
 山又山を
 ... (transcription of the text block below the illustration on the left page)

今この世はよくあるべきにや
この世はよくあるべきにや
この世はよくあるべきにや



あまのふゆきをまらぬ
あまのふゆきをまらぬ
あまのふゆきをまらぬ

今この世はよくあるべきにや
この世はよくあるべきにや
この世はよくあるべきにや



あまのふゆきをまらぬ
あまのふゆきをまらぬ
あまのふゆきをまらぬ

三田七郎

三田七郎

えの小角つゝとて... 仙の地とて... 小角の... 仙の地とて... 小角の... 仙の地とて... 小角の...



山ノ下ノ...

えの小角つゝとて... 仙の地とて... 小角の... 仙の地とて... 小角の... 仙の地とて... 小角の...



山ノ下ノ...

山ノ下ノ...

此のちや大任月のまゝのちや...
ついでにそのまゝのちや...
ついでにそのまゝのちや...
ついでにそのまゝのちや...

このとれは...
小角の...
このとれは...
小角の...
このとれは...
小角の...



小角の...
このとれは...
小角の...
このとれは...

このとれは...
小角の...
このとれは...
小角の...
このとれは...
小角の...



小角の...
このとれは...
小角の...
このとれは...



大王の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の

大王の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の

大王の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の



大王の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の

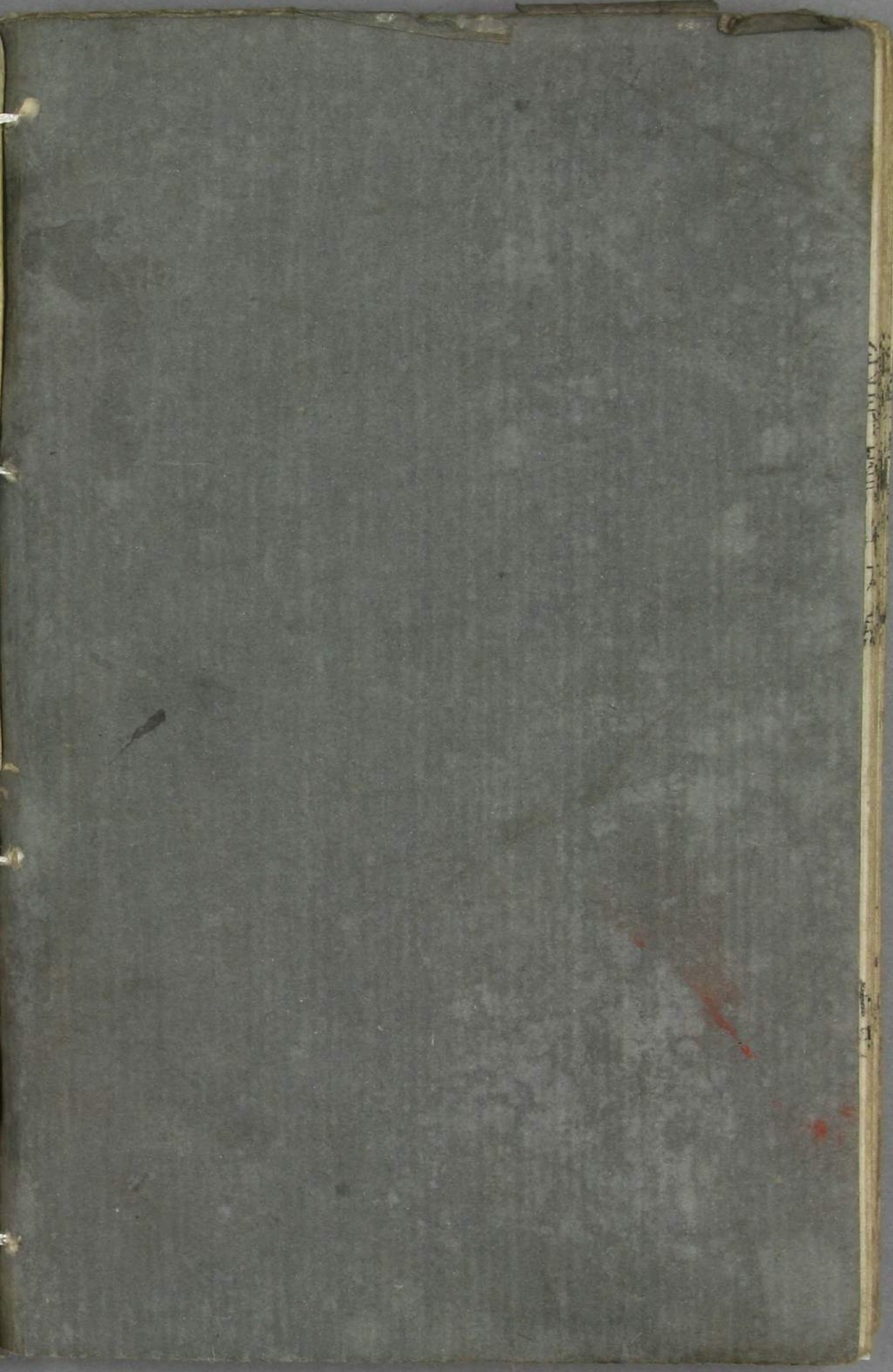
大王の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の

大王の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の
左の御方なりて左の
右の御方なりて右の



曲高馬琴作

漢齋共作

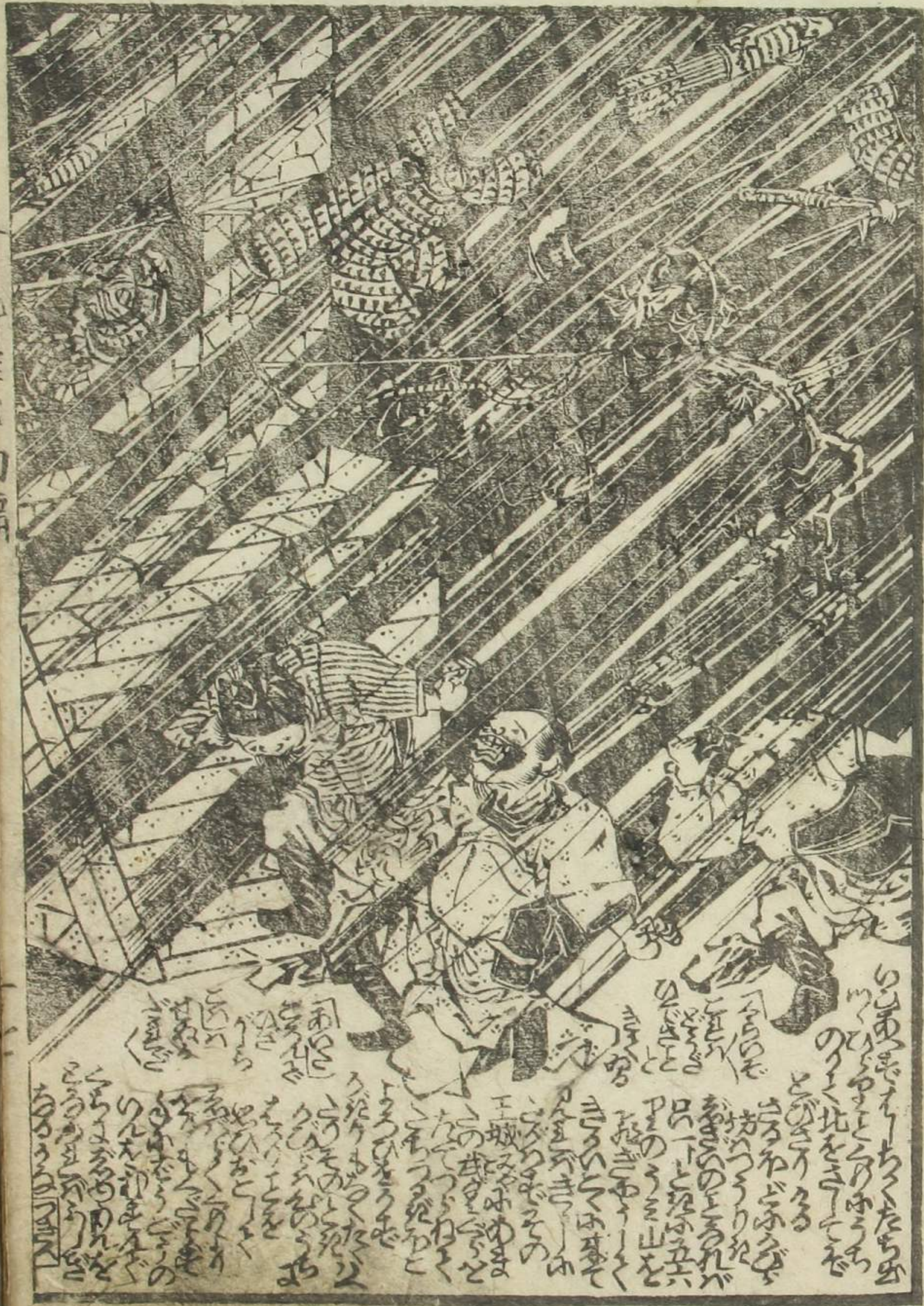




神釋性淡西部の菟向の程言濟語とまうせども
 思ひつゝ此地の若巧方後硯の海山帆を揚し此者画云
 奈奈奈お陰を多々極元をどうも我々命を初る津變
 わりすの鏡二編三編遅滞なく毎年お板元此後縁の
 此方の多奈とよみだは活判活起し程なき事の日上

板元 芝神明前 和泉屋市兵衛梓

金毘羅船初編下
 世金野五落太
 人御神酒樽守郎



金田氏列傳

金田氏列傳





山崎の
 大井
 山崎の
 大井
 山崎の
 大井

山崎の
 大井
 山崎の
 大井

山崎の
 大井
 山崎の
 大井

山崎の
 大井
 山崎の
 大井



山崎の
 大井
 山崎の
 大井

山崎の
 大井
 山崎の
 大井



三万五千人の軍を率ひて
 北の國に攻め入りて
 大將を討ち死せしむ
 其の首を手にて
 南の國に歸りて
 大將の首を
 懸けしむ

北の國の王は
 南の國の王に
 降参す



神作如意金拵棒
 一丈二尺五寸
 神作如意金拵棒

三万五千人の軍を率ひて
 北の國に攻め入りて
 大將を討ち死せしむ
 其の首を手にて
 南の國に歸りて
 大將の首を
 懸けしむ



あまのりちあまのりちのまじりておのの地のの
 うつらふまじりておのの地のの
 つたふまじりておのの地のの
 とおのの地のの
 うつらふまじりておのの地のの
 つたふまじりておのの地のの
 とおのの地のの
 うつらふまじりておのの地のの
 つたふまじりておのの地のの
 とおのの地のの

上のた
 上のた
 上のた
 上のた
 上のた
 上のた
 上のた
 上のた
 上のた
 上のた
 上のた
 上のた



牛馬及びのぐそのつらふまじりて
 うつらふまじりておのの地のの
 つたふまじりておのの地のの
 とおのの地のの
 うつらふまじりておのの地のの
 つたふまじりておのの地のの
 とおのの地のの
 うつらふまじりておのの地のの
 つたふまじりておのの地のの
 とおのの地のの

地のつらふまじりておのの地のの
 つたふまじりておのの地のの
 とおのの地のの
 うつらふまじりておのの地のの
 つたふまじりておのの地のの
 とおのの地のの
 うつらふまじりておのの地のの
 つたふまじりておのの地のの
 とおのの地のの







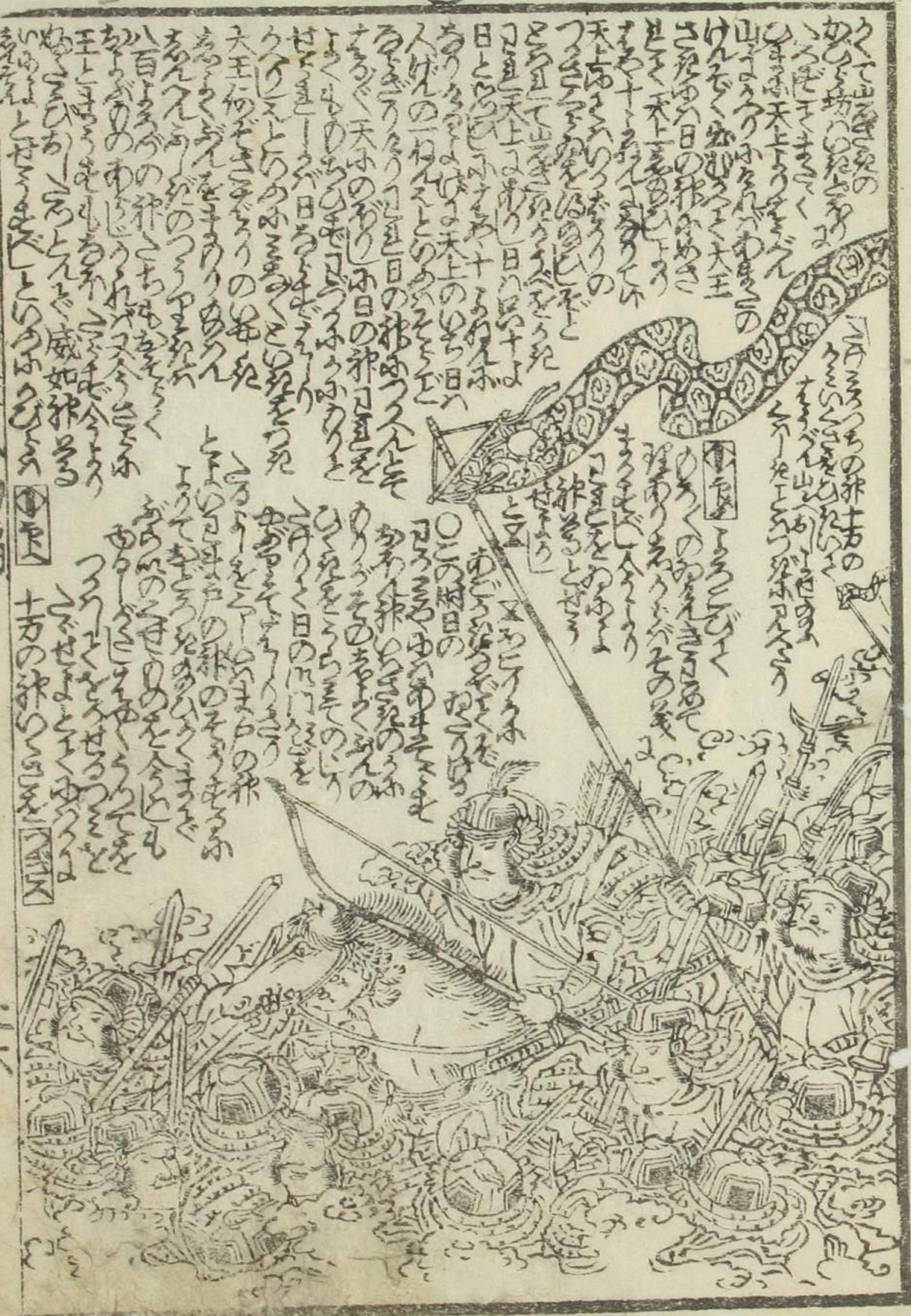
左 八つづく山とて

うらぐちあつてくまのぞいなるそのるつとあまのさきなり
くちのこもたれ神をやらつととせむさきさきくち
くちのこもたれ神のさきさきくちのこもたれ神のさきさきくち
くちのこもたれ神のさきさきくちのこもたれ神のさきさきくち

このは丁野のさき

そのうらぐちあつてくまのぞいなるそのるつとあまのさきなり
くちのこもたれ神をやらつととせむさきさきくち
くちのこもたれ神のさきさきくちのこもたれ神のさきさきくち

このは丁野のさき
そのうらぐちあつてくまのぞいなるそのるつとあまのさきなり
くちのこもたれ神をやらつととせむさきさきくち



このは丁野のさき

このは丁野のさき
そのうらぐちあつてくまのぞいなるそのるつとあまのさきなり
くちのこもたれ神をやらつととせむさきさきくち
くちのこもたれ神のさきさきくちのこもたれ神のさきさきくち

このは丁野のさき
そのうらぐちあつてくまのぞいなるそのるつとあまのさきなり
くちのこもたれ神をやらつととせむさきさきくち



供進... 天... 月...
 又... 合...
 第...
 此...

家傳神女湯
 精製奇應丸
 真方能胆黒丸
 婦人...

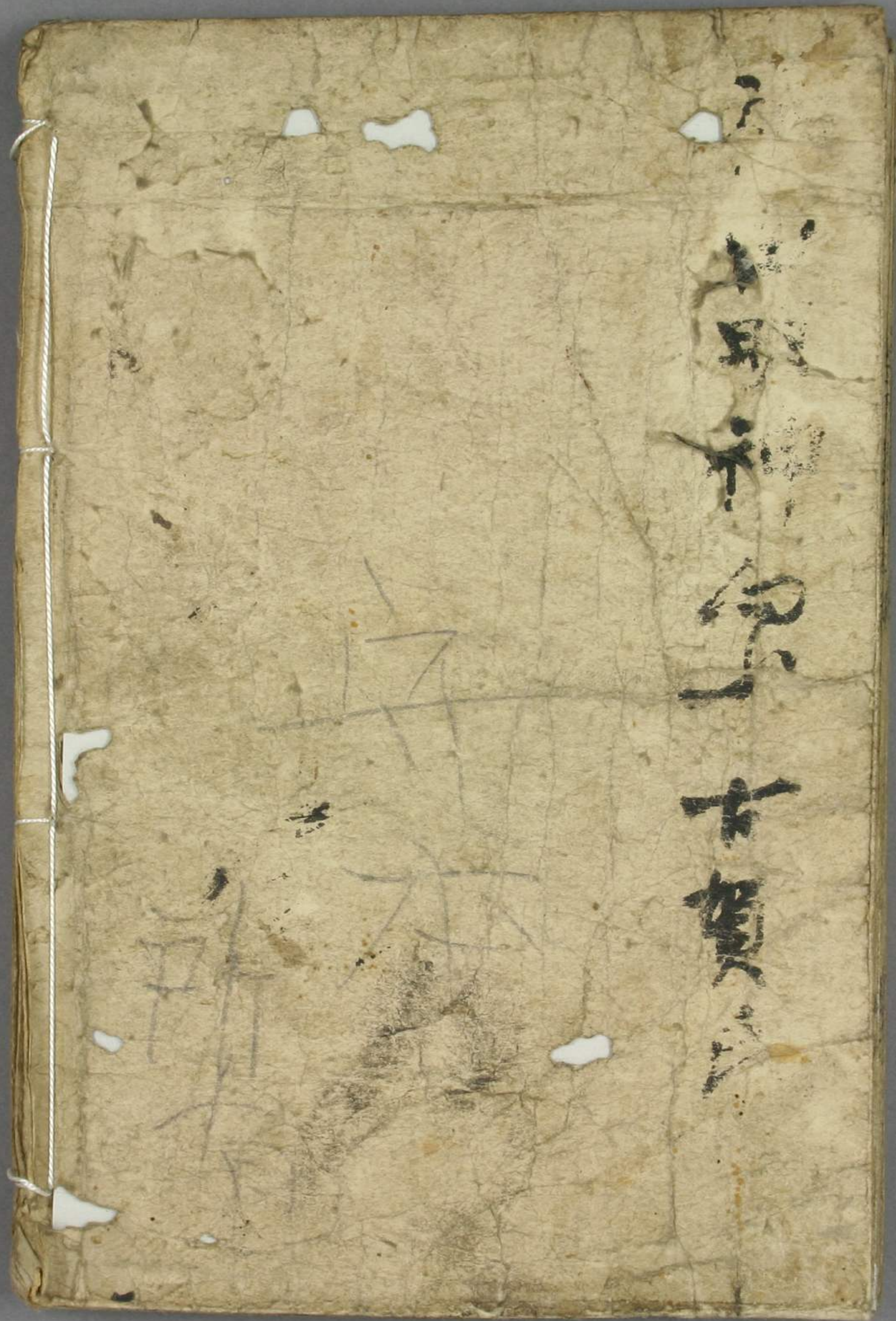
初の...
 二...
 三...



馬琴作
 華研千形伸道

英泉画
 齋

月... 月... 月...
 又... 又... 又...
 第... 第... 第...



新編十歌集